

フィリピン保健医療支援活動に携わって

看護師 西野真理

派遣地域 フィリピン共和国 キリノ州

派遣期間 2008年1月11日～7月10日

「腸チフスの講義をしてくれませんか」ジャイアン村という事業地の村落保健推進員から、彼女たちの住民向け健康教室を見学中に、私に要望がありました。その時、すぐに講義をすることもできたのですが、あえて行わず、本事業終了後も継続して彼女達が彼女達の村で活動できる方法を模索しました。村落保健推進員が健康教室で使用するための4種の疾患に対する教材を協同で作成・配布したことは、これまで学んできた日赤医療センターでの看護が活かされた貴重な経験となりましたので、ここに紹介します。



(フィリピン赤十字社の健診事業をサポートする西野看護師)

キリノ州ナグティブナン郡(マニラから北へ375kmの山岳農村地域)の7村を対象に、フィリピン赤十字(以下フ赤)地域保健事業に日本赤十字社(以下日赤)保健要員研修生として、6ヶ月間携わる機会をいただきました。フィリピン都市部にも路上生活者は十分な医療を受けられないなどの問題はありますが、農村部と比較すると交通網・情報網の発達、医療設備・人員が整備されています。しかし事業地7村は雨が降ると車の通行は不可能、携帯電話のアンテナはなく、夜はランプの生活、最も遠い事業地にはボートで川をさかのぼり登山し1日半かけて到着という条件の上、医療設備・人員も脆弱で、呼吸器・消化器感染症が多く見受けられていました。

そこで日赤・フ赤は保健医療サービスの拡充と地域住民の組織基盤強化、日赤保健要員研修生の農村経験と地域保健事業への参画を目的に3年半の事業が開始され、今年の6月に事業終了を迎えました。その間、村落保健所と水道の建設、衛生的トイレの配布等の住民の健康へのア

クセスの向上とともに、村の保健委員会や水道設備維持のための管理委員会のトレーニング、村落保健推進員の育成と活動のフォローアップ等の人材育成の側面も含めた総合的な事業展開を行いました。その中の村落保健推進員の活動支援の一環として、私は彼女達の健康教室を観察し、地域のニーズの把握と現状の分析、対応策の計画と実施を行いました。

ある日事業地のひとつであるジャイアン村へ訪問した際に、まず村落保健推進員による、地域住民に対する健康教室を観察しました。25名ほどの乳飲み子を抱いた母親を対象に、子供達が大勢にぎやかに遊ぶ中、6名の推進員が Dengue 熱、マラリア、はしか等の健康問題をめいめいの方法で講義しました。ある者は模造紙に書いて説明、ある者は教科書から顔を上げずに小さな声でと、教材を使用している人としていない人さまざまでした。他の村の推進員の講義方法も同様の傾向が見受けられていました。同時に、彼女たちの家で寝泊りさせてもらい、寝食をともにするうちに、収入は日本の約 10 分の 1、ほとんどが農家で家事も忙しく、教材を作る余裕はないだろうと想像できました。話をしていく中で、自分の暮らしが厳しくても「私の村は私が守る」というような責任感にあふれた推進員が多いこともわかりました。また前の月に数名が腸チフスに感染したため、私にその講義を依頼してきたこともあり、腸チフスへの注意喚起をしたいという地域のニーズも感じました。



(村落保健員がフリップチャートを使用している様子)

そこで、私が説明することもできたのですが、私は 6 ヶ月で去る身、当事業も 6 月で終了です。事業終了後は彼女達が自分達で続けていかねばなりません。ふと、医療センター小児科病棟で皮膚管理の看護のレベル向上を目指して取り組んだ日々がよみがえりました。「私が主役ではなく、フ赤・地域住民が当事者意識を持たなければ活動は続かない」と。村落保健推進員はじめ、地域の助産師、フ赤事業担当者の意見を合わせ、ニーズの高い腸チフス、Dengue 熱、マラリア、高血圧の 4 種類のフリップチャート教材をもう一人の派遣者とフ赤キリノ支部の同僚と協同し、タガログ語のものを作成しました。雨に強く、持ち運び安く、紛失しても支部に行けば複製できるなど管理方法も工夫し、事業地 7 村全てに 1 セットずつ配布しました。このような地域での活動を通し、フ

赤の同僚、地域の看護職にプラスの影響が少しでも及ぼせていたらと願います。

半年もの長い間多くの方の支援を得て、貴重な経験をすることができました。これまでの病院看護が役立ったもの、不足していて今後習得したいものが明確になった大変有意義な研修でした。皆様に支えていただき本当にありがとうございました。



(フィールドへ移動する西野看護師:車では移動できない地域も多い)